

第3回 自治基本条例推進委員会 （中間発表）

【提案⑦】

福知山市の自然やコミュニティの中でしか体験できない思い出をたくさん作ることで「心の豊かさ」を育むとともに世界に向けて「発信したくなる気持ち」を育てよう

提案内容

・コミュニケーションツール「Slack」を活用し、市民が自ら生活・観光情報を発信し、それによって市民同士がつながる仕組みをつくる。

(発表メモ)

【提案⑫】

福知山市の魅力、強みを生かして、儲かる観光業、農林畜産業をめざして盛り上げよう

提案内容

- ・観光業においてはターゲットを明確にできていないことや市民が良いと思う場所等を発信ができていないこと、また農林畜産業においては販売先がないこと等が課題。
- ・提案の実現に向け市民が参画する方法として、市民の人が自分達が行って、食べて良かったところを発信する仕組みや異業種同士が1つとなり発信できる場づくりが必要。
また、取組や話し合いの場(輪)には、既に積極的に活動されている事業者や市民に加え、商売のリーダーやオピニオンリーダーが必要で、最終的に若者、移住者、居住している外国人等も巻き込んでいくことで輪をさらに広げていくことができる。
- ・今後、どのように話し合いの場(輪)を設け、どのような取組ができるのか、より具体的に検討していく。

(発表メモ)

【提案⑭】

担い手が少なくなってきた時代に対応し、自治会などの活動を見直し、開かれた運営を行っていこう

【提案⑮】

「やらなければならない」地域活動から「やりたい人がやりたいことをやる」地域活動へ変えていこう

提案内容

- ・単独の自治会で事業を行うだけでなく複数自治会で連携する取組の検討を行う。

（発表メモ）

【提案⑳】

一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな相談、支援をできる体制を、地域包括支援センターを中心につくろう

提案内容

- ・地域包括支援センターの認知度を高めるために、チラシ等の媒体を使って地域に広める。
- ・困りごとを抱えている人を見つけたら、地域包括支援センターの相談に繋がられる地域の人を増やす。
- ・日頃からのあいさつや声掛けにより、地域の人同士のつながりを深める。
- ・地域の中で、年齢を問わず誰でも集まれる居場所をつくる。

（発表メモ）

【提案②】

独居高齢者、老々介護、介護離職など、様々な介護の事情や社会生活環境の変化をふまえ、担い手の多様化と地域での支え合いの仕組みをつくろう

提案内容

・地域のなかで顔見知りになることが大切。お互い知っていると、相談できたり、様々なアドバイスを住民同士で行うことができる。

⇒住民同士でアドバイスができる環境や楽しく集える場・機会を作ることができないか。

・やらされている感をださず、自分から進んでできること、楽しんでできることが大切。

⇒住民全体が担い手に。自然と地域全体での支えあいにつながる。

・参加者の属性、地域特性に応じた具体的な手法について今後検討していく。

(発表メモ)

【別班】 市民の参画の状況把握及び改善をすすめよう

提案内容

- ・多くの市民、そして市議会及び市の執行機関が、自治基本条例を理解しているまちを目指す。
- ・そのために、自治基本条例推進委員会の目的について整理して提案する。
- ・また、市民に周知するための戦略について、例えば、世代ごとのアプローチ方法について検討する。

(発表メモ)